



「環境白書」の発刊にあたって

三重県知事 鈴木 英敬

地球温暖化の進行や生物多様性の損失、資源の枯渇などさまざまな環境問題が、国際社会にとって喫緊の課題となっています。気候変動枠組条約締約国会議や生物多様性条約締約国会議において、国際的な枠組みについて話し合いが進められるなか、平成28（2016）年の5月26日から27日まで三重県で開催される伊勢志摩サミットにおいても環境問題は大きなテーマの1つとなるのではないかと考えられます。

地球温暖化は世界規模の課題であるとともに、私たちにとっての身近な問題でもあり、近年では、県内でも年平均気温の上昇など、その影響と思われる変化がみられています。本県では昨年、県内の「気候の変化」「気候変化による影響」に関する情報を中心にまとめた「三重県気候変動影響レポート2014」を作成しました。今後も調査・研究を進め、県民の皆さんへ情報提供を行っていきます。

また、生物多様性に関しては、依然として多くの野生動植物が絶滅の危機に瀕する中、野生動植物の生息生育状況に関する最新の情報を反映させるため、昨年度、「三重県レッドデータブック2015」をとりまとめました。今後も貴重な野生動植物とその生息環境が将来に引き継がれていくよう活用を図ります。

本県では、「みえ県民力ビジョン」の基本理念である「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を具体化するための取組を示す「みえ県民力ビジョン第二次行動計画（仮称）」を策定しているところです。第二次行動計画に基づき、社会経済情勢の変化や県民の皆さんのニーズの変化などをふまえ、環境施策の総合的かつ計画的な推進を図っていきます。さらに、本県の人口減少の課題への対応を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても環境への負荷が少ない持続可能で魅力的な地域づくりを進めていくこととしています。

本白書は、三重県環境基本条例第10条に基づく年次報告として、平成26（2014）年度における三重県の環境の状況と、取組の結果を含めた三重県の環境保全に関する施策全般をとりまとめたものです。

本書を通じて、皆さんが今日の環境問題に対してご理解を深めていただき、皆さん自身が考え、主体的な行動を起こしていただくことを願って、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成27年10月